和漢古書の情報を読む一複雑さと個性の世界一

和漢古典籍研究分科会

2007年12月13日

和漢古典籍研究分科会活動報告



分科会の活動内容

■ 概要

□ 東アジア圏(日本・中国を中心とする)で出版・刊行された 和漢古書について、現物を調査し、その世界に親しみ、 書誌学の基本的な知識を学びながら、目録作成の技術 を習得することを目的とする

■ 活動

- □ 輪読
 - 「日本書誌学を学ぶ人のために」 廣庭基介・長友千代治著
- □ 目録作成用調査用紙(=調書)作成
- □ 他機関見学(和漢古書関連機関)
 - 静嘉堂文庫
 - 印刷博物館 など

目録作成にあたって



国書・漢籍の定義

■国書

□編著者が日本人で、日本で書写された写本もしく は日本で出版された版本

■漢籍

- □編著者が中国人で、漢字のみで書かれたもの
 - ※ 中国以外の国で出版されたものも含む
 - ※ 仏典など中国人以外の著作を中国語訳 したものも含む
 - ※ 日本人が漢字で書いたものは含まない



書誌用語について

■ 国書と漢籍では、用いる書誌用語が異なる ⇒配布資料参照

例えば・・・

手書きで書き写した書物のことは

- ◆国書では「写本」
- ◆漢籍では「鈔本」

印刷した書物のことは

- ◆国書では「版本」
- ◆漢籍では「刊本」

×

その他の例(一部のみ)

漢籍	国書
刊本	版本•板本•刻本•刊本•印本
活字印本•聚珍本	活字版•活版•一字版•植字版
排印本•鉛印本	活字本·活版本·鉛槧本
石印本	石版本
銅版印本	銅版本
景印本	影印本•影譜
油印本•孔版本	謄写版・ガリ版本
套印本	多色刷り本
補鈔	補写
首書	首書・頭書(かしらがき)・鼇頭(ごうとう)
版心題	版心書名、柱題、柱書
巻尾題	尾題
巻尾跋	後跋・跋・跋文・跋語・後序・書後・あとがき



✓ 分科会で使用している調書

7	1	(漢籍·維漢籍·図書) 整理番号
+1	刊本 木活字印本	書名読み
	飘活字印本 活字印本	(4) 本文卷首語署
	石印本 劉版印本	
	景印本 切印本	
	砂本 約印本 油印本	
	惠印本	
	唐本 韓本 和本	
年語行状		
脚後頭		(5) 版式 辺 界 行 字(注文 行)首書(注文・校字・評語) 服態 批測
MID:		口 魚尾 坂心難
旧蔵 .		内国邦 × cm 二段 三股本 (内寸 × cm)
表紙 (色・文様) 級	(装書)	白文 麦點 訓點送仮名付 句讀點 (有・無) 和文
請求 (分類) 番号		版心注記事項 魚尾上 魚尾下
(1) 表紙·顧簽·装訂等 平装 精装 級装	铁 册 × 堰	
頭黃頸 (書)	हा अ	
		(6) 卷尾題
(2) 封面·副葉子等 封面·見返 () 副葉子	22	
期 權		
		(7) 卷尾紋·附録等 (附録 種)
刊記		
(3) 序・目・凡例等 12目 凡例 刊記		
		(8) 刊記・現付等
目首題 総物数		*丁付・所見は裏
		東好日 質 人研日 質 内配日 頁



調書作成の手順

原資料

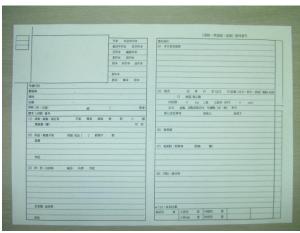




工具書

目録などの 参考資料

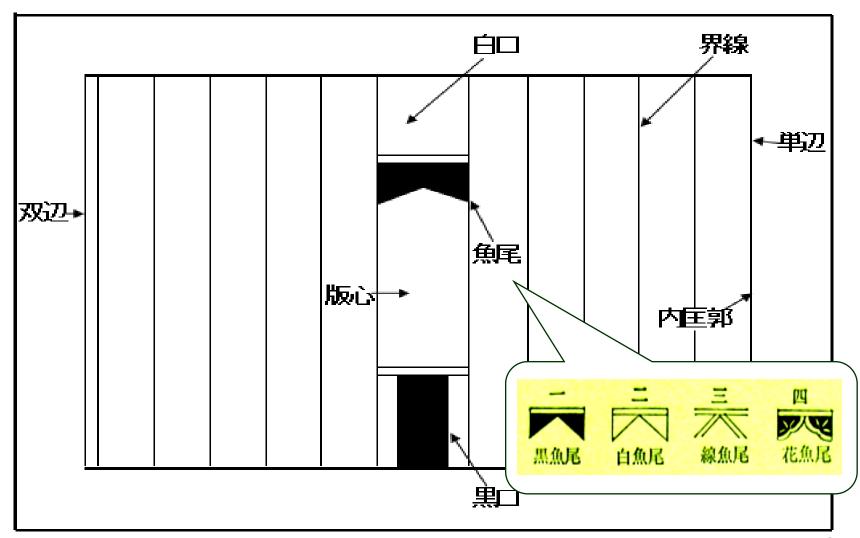






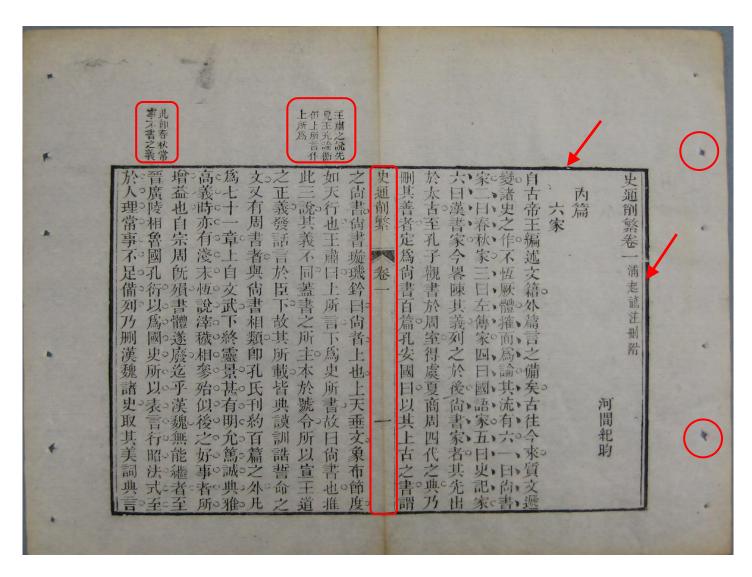


版式の説明



10

版式実例: 史通削繁

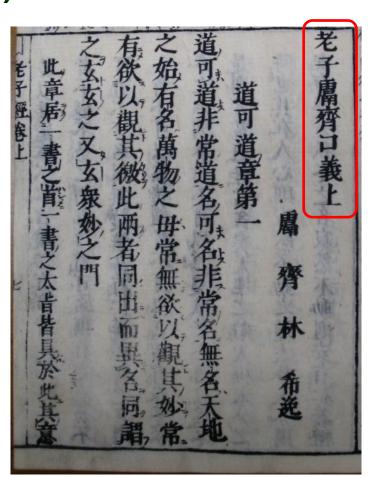


1

例1:老子経(漢籍)



表紙の題簽題



巻首題

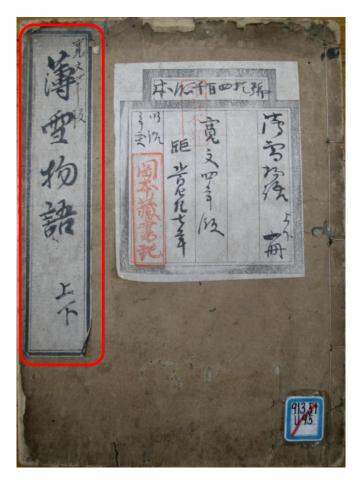


例1:老子経(漢籍)

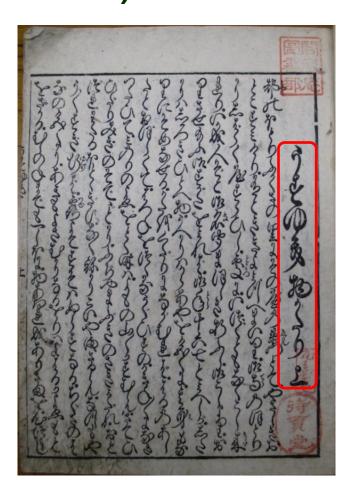
書名の位置	記載書名
題簽	訂正鼇頭老子經
小口書	無し
封面•見返	無し
序	老子鬳齊口義發題
目次	無し
本文巻首	老子鬳齊口義上
版心題	老子經
巻尾題	大尾
跋文	延寶二年 徳倉昌堅
附録	無し

F.

例2:うすゆき物語(国書)



表紙の題簽題



巻首題



例2:うすゆき物語(国書)

書名の位置	記載書名
題簽	薄雪物語(書写)
小口書	無し
封面•見返	無し
序	無し
目次	無し
本文巻首	うすゆき物かたり上
版心題	うすゆき
巻尾題	下終
跋文	無し
附録	無し



まとめ

- ■和漢古書の特殊性
 - □書誌情報の複雑さ
 - □独特の書誌用語

定型化・規則化が困難

- 和漢古書の目録作成に必要なもの
 - □和漢古書についての基礎知識
 - □書誌学の知識

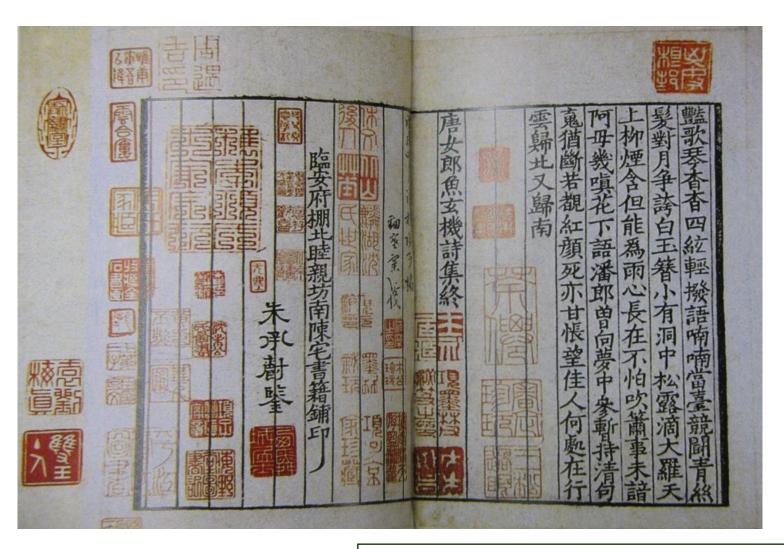


そのための人材育成が必要である

蔵書印の世界

H

蔵書印の世界





蔵書印のはじまり

- ■書籍が貴重だった時代、人に貸した本がなく なってしまわないように、所蔵者の印を押した
- 蔵書印のはじまりは、唐代と言われている



✓ 日本最古の蔵書印は、光明 皇后(701-760)の「杜家立成 雑書要約」に捺印された 「積善藤家(せきぜんとうか)」

蔵書印の例



































蔵書印調査の意義

- 1. 蔵書収集状況の確認
- 2. 刊行時期推定の一助
- 3. 資料の変遷や流通過程の検証
- 4. 書物の全容の把握
- 5. 史実考証への活用
- 6. 意匠的価値



蔵書印は重要な情報の一つである

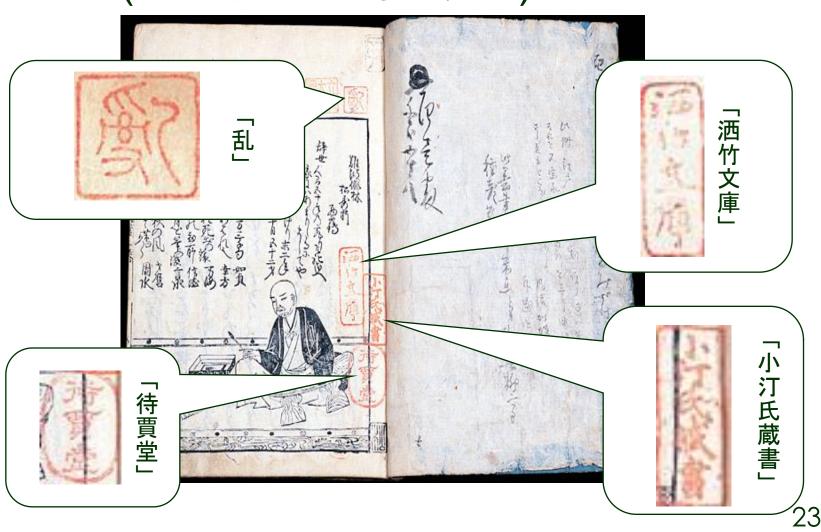


蔵書印調査の判読について

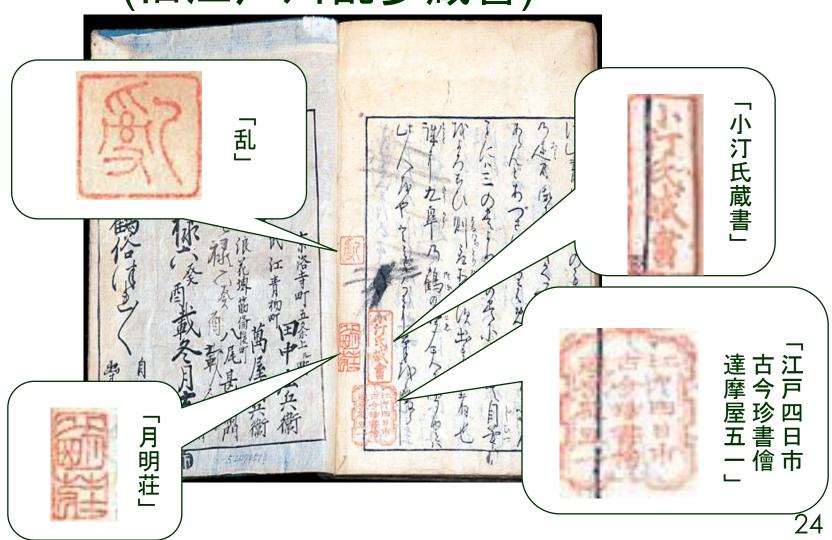
- ■判読の材料
 - □蔵書印の印文
 - □肉色
 - □書物の内容
 - □刊行年•書写年代

- ■「新編蔵書印譜」などの工具書を利用する
 - ⇒配布資料参照

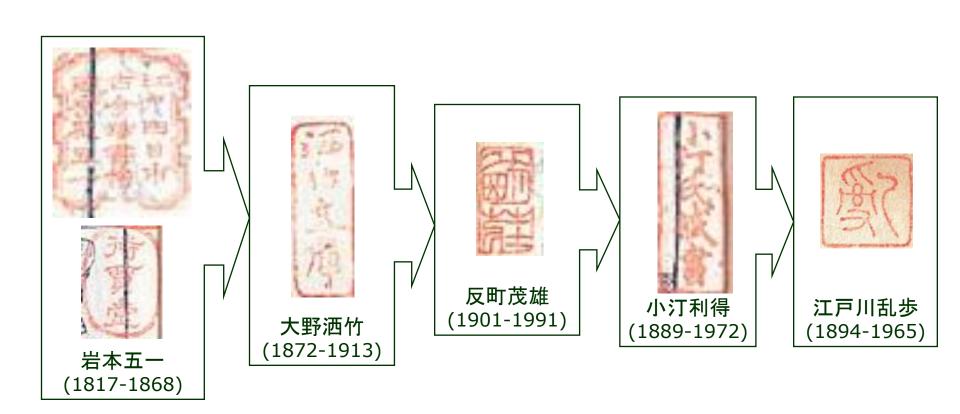
例1:「西鶴置土産」巻頭 (旧江戸川乱歩蔵書)



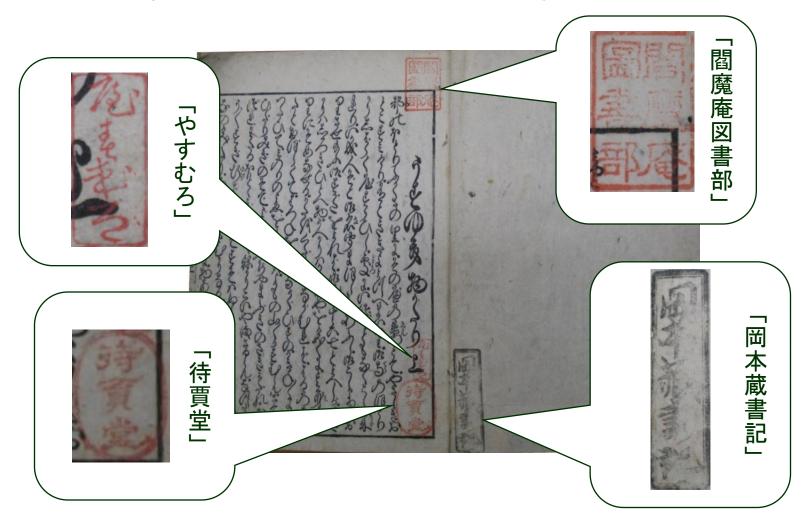
例1:「西鶴置土産」巻末 (旧江戸川乱歩蔵書)



例1:「西鶴置土産」蔵書印年代順(旧江戸川乱歩蔵書)



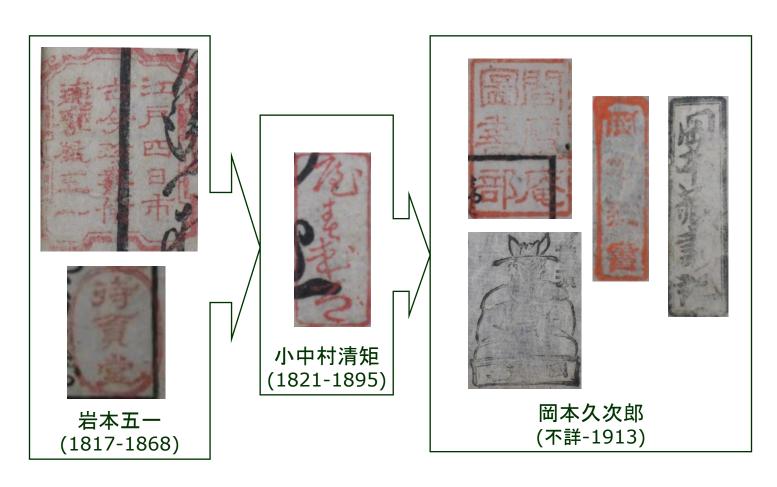
例2:「うすゆき物語」巻頭 (多摩美術大学蔵書)



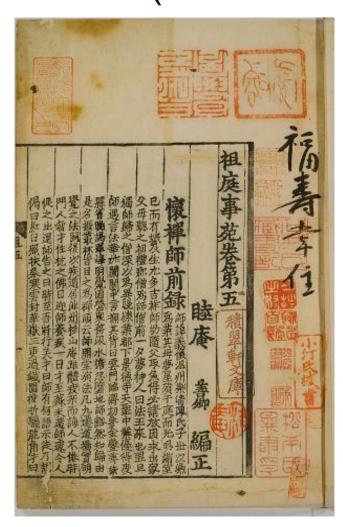
例2:「うすゆき物語」巻末 (多摩美術大学蔵書)



例2:「うすゆき物語」蔵書印年代順(多摩美術大学蔵書)



例3:「祖庭事苑」巻頭 (駒沢大学図書館蔵書)



















10.







例3:「祖庭事苑」巻頭 (駒沢大学図書館蔵書)



「虎叡」



「弐麓軒」



「虎叡」



「石井氏蔵書印」



「巧拙之奴」



「聊以自娯」



「小汀氏蔵書」



「光輪」



「不明」



「松本氏図書印」



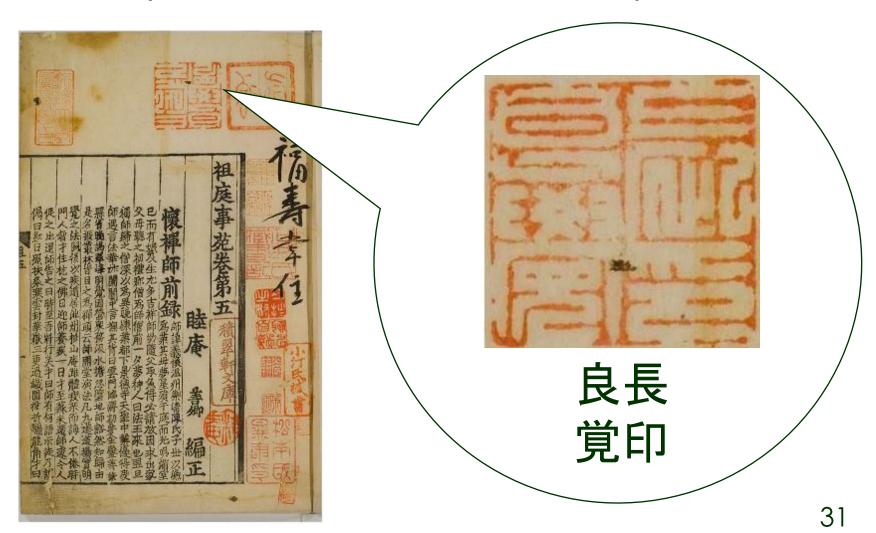
「積翠軒文庫」



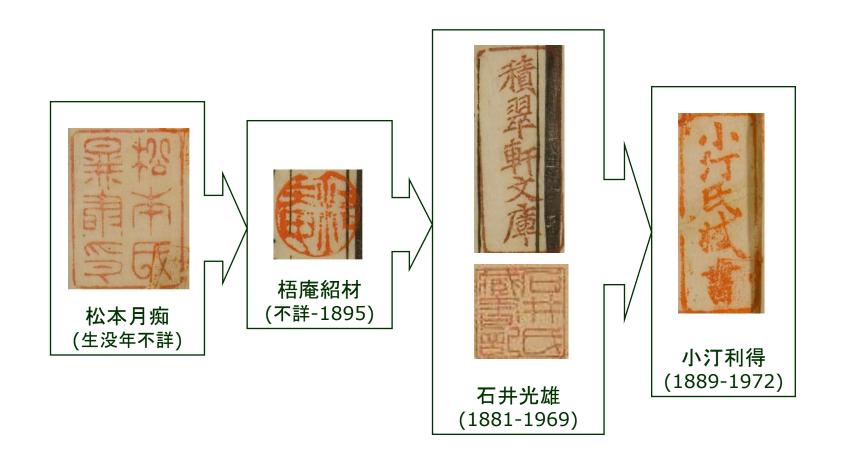


「梧庵」

例3:「祖庭事苑」巻頭 (駒沢大学図書館蔵書)



例3:「祖庭事苑」蔵書印年代順 (駒沢大学図書館蔵書)



次期の活動に向けて



和漢古書を活用するには

大学の貴重な財産を救い、活かす道を探る

 \downarrow

わからないから扱えない=死蔵化

この悪循環を断ち切る

 \downarrow

図書館員のスキルアップ

人材育成の必要性



次期会員募集

- ・大学図書館員として身につけておきたい知識を基本から習得(初心者大歓迎!!)
 - ✓ 貴重な資料に触れつつ日本の文化を学び、 書誌学の基本知識と目録作成技術を身に つけることができます

皆様のご参加をお待ちしております。